

将来人口の動向(P12~P13)

＜平成32年までの動向＞

◆トリヴェール和泉への入居の進展及びその周辺において近年、マンションが建設されていることを勘案すると、現状の転入者数を維持できるものと想定される。  
 ◆しかし、トリヴェール和泉における全体想定入居者数は約4,000人程度であるため、少子化等による人口減少を緩和する効果は十分果たすものの、市人口を押し上げるほどの期待をすることは難しい。

＜平成32年以降の動向＞

◆トリヴェール和泉への入居が終盤を向かえるほか、マンション建設等の開発も先行きが不透明であるため、大幅な転入増は見込めない。  
 ◆転入者数の減少が見込まれることから、人口移動の均衡を図るのであれば、転出者数の抑制が必要。(図8参照)  
 ◆高齢化の進展による死亡者数の増加、「25～34歳女性人口」の減少に伴う出生者数の減少により、自然減が継続。(図15参照)

推計手法(P13~P14)

●当面は、これまでと同様、トリヴェール和泉への入居の進展が見込まれ、近年と大きく状況が変化することは想定しにくい平成32年までは、過去5年の人口動態の変化率を反映した推計を行う【**コーホート変化率法**】

●平成32年以降は、人口動態が大きく変化することが想定されるため、コーホート変化率法による推計は困難

●社人研が公表している『生残率』については、大きな誤差は生じないと考えられることから、そのまま用いる  
 ●社人研が公表している『純移動率』は、現状と大きく乖離している⇒本市で見込まれる「社会増減」の動向を踏まえた条件を設定することが必要(人口ビジョン(素案)P14参照【**コーホート要因法**】)

推計条件(P15)

＜基本条件＞

(合計特殊出生率)  
 平成27年の出生率を、平成25年と同率の「1.37」と仮定  
 (平成32年までの生残率及び人口移動)  
 過去5年の人口動態の変化率を反映

＜上位値＞

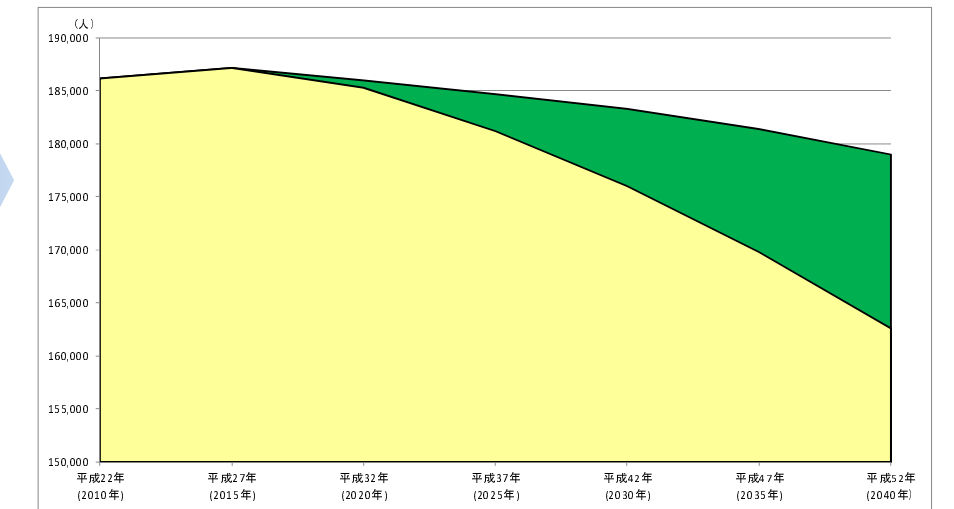
(合計特殊出生率)  
 ・国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」において示された出生率が達成すると仮定(平成32年 1.6、平成42年 1.8、平成52年 2.07)  
 (平成32年以降の人口移動)  
 ・平成32年以降、人口移動は均衡すると仮定

＜下位値＞

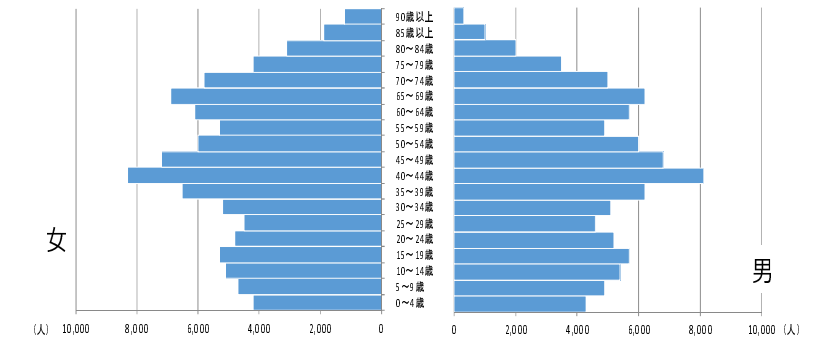
(合計特殊出生率)  
 1.37が継続したと仮定  
 (平成32年以降の人口移動)  
 ・平成32年以降における「20～29歳男女」の転出率が、現状と同程度の割合(平成22年4月の住民基本台帳人口から平成27年4月の住民基本台帳人口への推移により推測される割合)で継続すると仮定(図9・10参照)  
 ・平成32年以降、上記以外の世代の人口移動は均衡すると仮定

人口推計結果(P16~P21)

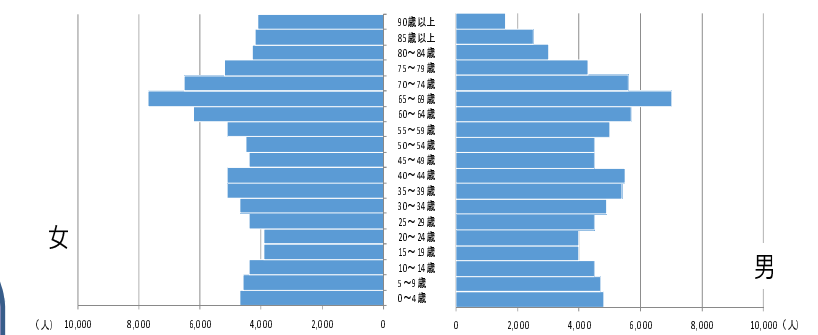
	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年
上位値	186,166	187,166	186,000	184,700	183,300	181,400	179,000
増減			▲1,166	▲1,300	▲1,400	▲1,900	▲2,400
下位値	186,166	187,166	185,300	181,200	176,000	169,800	162,600
増減			▲1,866	▲4,100	▲5,200	▲6,200	▲7,200
上位と下位の差			700	3,500	7,300	11,600	16,400



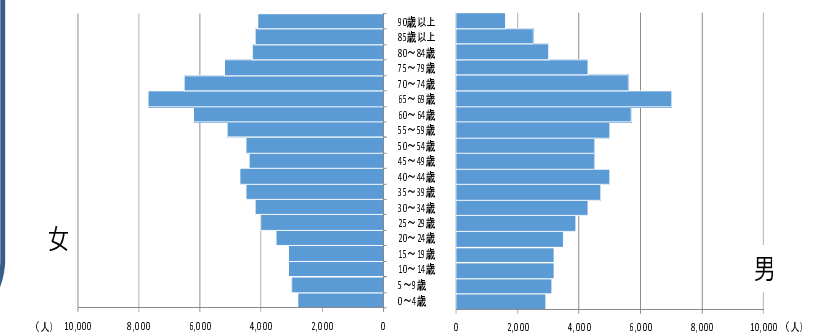
(平成27年の人口ピラミッド)



(平成52年(上位値)の人口ピラミッド)



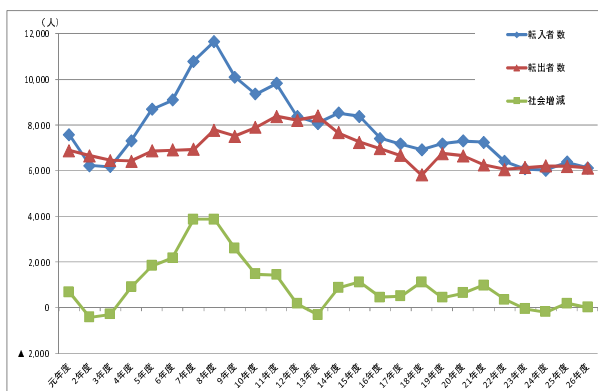
(平成52年(下位値)の人口ピラミッド)



＜人口推計にかかる基礎資料(和泉市人口ビジョン(素案)抜粋)＞

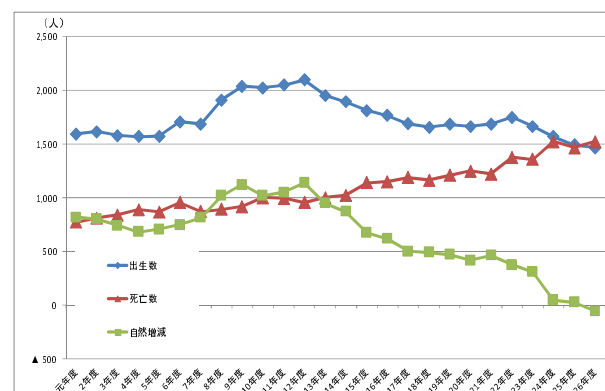
※図の番号は、「和泉市人口ビジョン(素案)」の番号を表示

【図8 転入者・転出者・社会動態の推移】



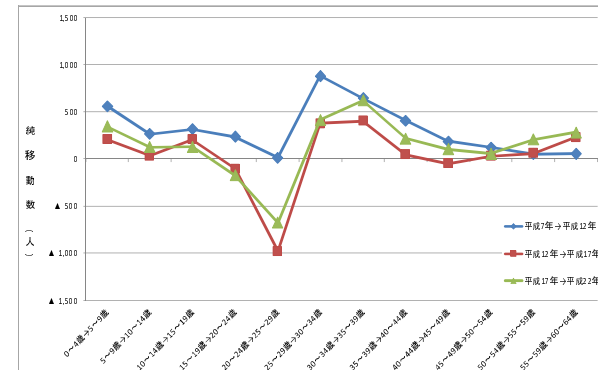
※「統計しずみ」により作成  
 ※平成26年度は、住民基本台帳法に基づき作成

【図15 出生者数・死亡者数・自然動態の推移】

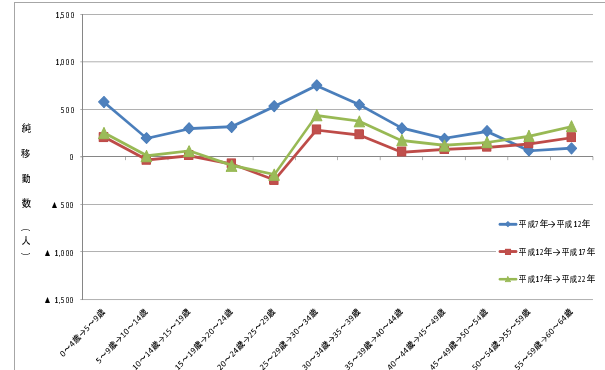


※「統計しずみ」により作成  
 ※平成26年度は、住民基本台帳法に基づき作成

【図9 年齢階級別社会動態の推移(男性)】



【図10 年齢階級別社会動態の推移(女性)】



【用語説明】

◆**コーホート変化率法**

過去における実績人口の動態から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法

◆**コーホート要因法**

ある基準年次の男女年齢別人口を出発点として、これに仮定された生残率と出生率(必要な場合には移動率も)を適用して将来人口を計算する方法

◆**生残率**

ある集団(5歳区分別人口)が、一定期間後(5年後)に生き残っている割合

◆**純移動率**

ある地域の純移動数(転入ー転出)が地域人口に占める割合